

ボランティア通信 ～白幡小学校土曜塾～

目 次
1回目のボランティアについての 反省とこれから 人間科学部4年 深田賢
初めての学校ボランティアを 終えて 法学部2年 徳山綾太
私のボランティア活動の目標 科目等履修生 沖野勇介
ボランティアを通して学んだこと 人間科学部2年 河田直麿
学校ボランティアの抱負 人間科学部2年 藤原達矢
土曜塾を通して 法学部4年 戸花善紀



1回目のボランティアについての反省とこれから

人間科学部4年 深田賢

私は、今年の5月から白幡小学校で土曜塾のボランティアに参加させていただいています。4年生という他のボランティアの方々よりは遅めのスタートですが、短い期間であっても実際に学校教育の現場に出ることしか得られないものが必ずあると思い、この学校ボランティアの参加を希望しました。

今の時点でまだボランティアには1回しか参加できておらず、慣れない部分がほとんどですが、児童たちと共に勉強することに新鮮さを覚え純粋に楽しいと感じています。しかしその1回の中でも児童たちと関わることで気付いたこと、改善しなければならないことなどが見えてきました。

児童たちの勉強を補助していても感じたのは、自分にとっては当たり前前のことを教えることの難しさです。私が補助していた児童の1人が算数の円の問題に取りかかっていたのですが、なかなか、はかどっていない様子でした。そこで私が円の性質について説明したのですが、理解できなかったのかあまり反応がありませんでした。今となって考えれば、もっと冷静になって、分からない部分の詳細を質問したり、児童の身近な具体例と共に説明したりできたのではないかと思います。そして、無意識のうちに私がやりやすいように一方的に話してしまったのも原因のひとつなのではないかと感じます。この反省を活かし、教える際は質問をこまめに投げかけ具体的に理解できていない部分を明らかにしつつ、説明は短く簡潔にする、ということをやまずは実践していこうと思います。

また、児童たちの集中力をいかに持続させるかということも大きな課題であると感じました。私が補助していたのは児童6名ほどのグループでしたが、全員が元気で活発で、初めから終わりまで常ににぎやかな雰囲気の中での活動となりました。そんな元気な児童たちですから、静かに机に向き合うはずもなく、席を立ったり、ときには教室からも出て行ってしまうこともありました。

このことについて、してみたところ、自分の教えることの技術不足による退屈もそうですが、何より児童たちを強く注意しないことで、児童たちに何をしても怒られない、と思わせてしまっていることが大きいのではないかと感じました。私には小さい児童を注意した経験はありません。心のどこかで、注意することで児童に疎まれるような存在になりたくないと思ってしまうのです。しかし、本当に児童のことを思って成長してほしいと考えるなら、注意は必要だということも分かります。せっかくボランティアに参加させていただいているのに自分も児童たちも成長できないのはふがいないし、失礼なことだと思うのです。「強い注意」とはいかないまでも、児童たちの成長のために自分に今できることは何かを念頭に置き、時には厳しくメリハリのある指導を少しずつ始めていきたいと考えています。

この土曜塾を始めて日も浅いですが、児童たちの成長を第一に考え指導法を試行錯誤し、その中で自分の成長にも繋がるような学びを得ることができるようボランティアを続けていきたいと考えています。

初めての学校ボランティアを終えて

法学部2年 徳山綾太

私は今年度から、白幡小学校土曜塾ボランティア活動を始めました。土曜塾の前に体力テストの手伝いをしました。児童と接することが楽しくて、早く土曜塾に参加したいと思いました。土曜塾では「なかよし英語」と「読み書き算」があり、私は両方に参加しています。今回のボランティア活動を終えてみて児童への対応の大変さを改めて実感しました。また、今回は初めてだったので流れを掴むことで精一杯でした。そのために配慮が足りず、児童への対応が遅れてしまうことがありました。また、先生方の行動を見ることができませんでした。早く環境に慣れて、周りを見ながら適切な配慮がしたいと思いました。

また、前述したように「仲よし英語」、「読み書き算」の両方に参加しているので、二つの特徴を生かして学んでいきたいと思っています。「仲よし英語」は集団の授業です。一人目立つ児童がいたら、そちらに気をとられてしまいがちですが、他の児童に対しても配慮できればいいと思います。教師は一度に多くの児童を相手にする機会が授業、学級活動、課外活動などの場面で多くあります。ですから、常に全体に気を配り児童一人一人の状況を把握でき、また即座に対応できるようになりたいと思います。また、先生の補助なので、先生が集団に対してどのような教え方、配慮の仕方をしているのかを観て学習したいと思っています。「読み書き算」では少人数で行い、学生ボランティアが主になって児童の学習の補助をします。自分が主であるため、自分がやろうと思ったことはすぐに実践することができま

す。したがって、思いついたことはすぐに実践していききたいと思います。また、集団での補助よりも児童と会話を交わすなど接することが多くなります。接していくなかで、児童一人一人に合った教え方を学びたいと思います。

私の目標は、2つあります。1つ目の目標は「積極的に児童と接すること」です。学校で児童と接する機会は減多にありません。学校ボランティアだからこそできることです。この機会を利用して、できるだけ多くの児童と接していきたいです。教師として多様なタイプの児童へ臨機応変に対応するという事は、身に付けておかなければならない資質の1つです。今回のボランティア活動のなかで、集中して学習に取り組むことが苦手の児童がいました。注意の仕方が悪かったようで、学習に向かわせることが上手くできずに授業が終わってしまいました。今後、多くの児童と実際に接していくことで、対応の仕方を学んでいきたいと思っています。また、学んでいく際には児童の立場になって考えることを念頭に置いてやっていきたいと思っています。

2つ目の目標は「どんなことも自分から参加すること」です。1つ目の目標にも関連しますが、多くの児童と接するためには自分から児童と接する機会を増やしていかなければなりません。前述したように体力テストの手伝いをしました。そのなかには、土曜塾に参加していない児童がいます。そのため、土曜塾では接することがありません。多くの児童と関わるために、土曜塾に加え参加できる行事には積極的に参加していきたいと思っています。また、体力テストなどの様々な行事の手伝いをする機会は減多にありません。そのような経験はないので、行事の時に先生がどのように行動しているのか、どのような仕事があるのかなどは理解できていません。教師になることができたとしても役割を理解できていなければ、自分で判断をして行動することができず、教師としての仕事ができません。そのため、自分から参加して経験を積みみたいと思います。

始めたばかりなので、分からないことが多いですが、設定した目標を達成していけるように精一杯取り組んでいきたいと思っています。そして、活動を通して教師として必要な資質を身に付けることに加え、人間的にも成長していきたいと思っています。

私のボランティア活動目標

科目等履修生 沖野勇介

私が白幡小学校でボランティア活動をして二年目になった。私の白幡小学校土曜塾の目標は三つある。

一つ目は「児童とボランティアがお互いに学び合い成長する」である。それは、児童に勉強を教えることで自分たちも学ぶことを意味している。教えることは同時に教わっているのである。そして、お互いに教え教わることで一緒に成長するのである。つまり、理解することは教えることができて初めて成り立つのである。二つ目は「明るく、楽しく学ぶ」である。そのためには、児童達が勉強は苦痛ではなく、理解すると楽しいと思うようにボランティアが工夫する必要が大切である。例えば、「割り算」でも、鉛筆を用意して、実際に何本ずつかに分けさせて何組できるかを児童に見せるのも面白い工夫である。そのようなことはいくらでも可能であり、大事である。三つ目は「土曜塾を学べる場にする」である。それは、ただ勉強する場だけの意味ではない。そもそも、「学ぶ」とは勉強も含めて様々な分野に渡り、理解し実生活に役立てる言葉であり、広く「学び」を考える必要がある。そのように「学ぶ」ことのできる場として「学べる場」を提供したいと思っている。それは、学校はもちろん学校の外にもある。

以上の目標を果たすためには気をつけることがある。まず、分からないことは聞くことである。それは保護者ボランティアでもいいし、最終的には事務局長さんに聞くのが良いと思っている。一人で悩まず、様々な人の助言に耳を傾けることは大切である。つまり、事務局長さんや保護者ボランティアの皆様との連携が必要でになるのである。

そして、教えるときは児童の目線に立ち考えることである。児童一人一人、個人差がある。だからこそ、時間を掛けて理解するまで丁寧に教える必要がある。児童一人一人、その子どもに合った教え方を試行錯誤しながら模索できるように努めていくことが大切である。なぜならば、児童が何を理解していないのかを把握しておかなければならないからである。そうでなければ、何を教えていいかが分からないからである。

続いて、児童は大人や教師の行動をよく見ている。それは、良いことや悪いことを含めてである。だから、ボランティアも日頃から自分の行動はよく見られていると思い、軽率な行動や言動をとらないように注意することが必要である。また、児童は大人が思う通りに育つ訳ではない。児童は大人が考えているように未熟で弱いかもしれない。

しかし、児童は成長していく過程で様々なことを学び、身につけていくものである。それを大人が分かってあげなければならない。児童もまた自分の思い通りにならないことを苦に思い、意欲が薄れてしまうこともあるかもしれない。

そういう時こそ、大人がじっくり話を聞くことが大切だといえる。そして、児童の行動や言動に一つ一つ耳を傾けて、優しく見守ることも大切なことである。だから、大人が児童を支えていく必要がある。

最後に、学校は、児童が楽しく、明るく勉強できる場であればならない。つまり、学校が児童にとって拠り所であるべきである。もちろん、学校は学ぶ場かもしれない。しかし、あくまで学ぶのは児童が主体である。そして、学校で仲間や教師と一緒に学び、同じ時間を共有していくのである。そうした場が学校のあるべき姿だと考える。土曜塾のボランティアもあくまでそうした学校作りの手伝いとして児童を支える場であり、そういう場を私達が作って行く必要がある。それから、いつも笑顔を保つように心懸けて実際に行動にしなければならぬ。以上、これまで述べたことを心掛けて、私は今後のボランティアに取り組んでいきたい。



ボランティアを通して学びたいこと

人間科学部2年 河田直麿

私は、昨年度の9月ごろから白幡小土曜塾ボランティアを始め、今年度も白幡小土曜塾のボランティアを続けることにしました。昨年度は途中からの参加だったため、なかなか要領が掴めずに、あたふたしているうちにボランティア活動が終わってしまうことが多々ありました。後半の方は要領も掴め、児童とのコミュニケーションの取り方や、どれだけ簡単な表現で児童に伝えていくのかということを試行錯誤しながら活動することができました。今年度は、昨年度に学んだコミュニケーションの取り方を活かしながら、なかなか集中できない児童がどうやって勉強に興味を持って集中できるかなどを考えながら、ボランティア活動を行っていききたいと思います。

昨年度、白幡小学校で行われたボランティア反省会で、「教室を抜け出して遊びに行ってしまう児童がいる。」という話をしました。主に、高学年の児童に多く、私はその学年の担当をすることが多いため、いつも悩んでいました。反省会でこの話をした後、現職の先生に「困ったことがあったらすぐに相談すること。自分の中で解決しないでしっかり報告をすること。学校内では、報告・連絡・相談が重要です。」というアドバイスをいただきました。私は、自分で解決できることは自分でやらなければと考えていたので、現職の先生方に教えを請うことも大切だということを学びました。だから、今年度の活動では、ボランティアを見に来てくださる先生方と関わりながら、アドバイスを受けたり、先生方の児童との接し方を見ることで、注意の仕方や、児童を集中させるにはどのようにすればいいのかということを学んでいききたいと思います。

今年度の土曜塾ボランティアでは、自分が教員になった時のことを思い浮かべながら、児童の小さな変化や、またそれに対応するために自分にできることなども意識していきたいです。

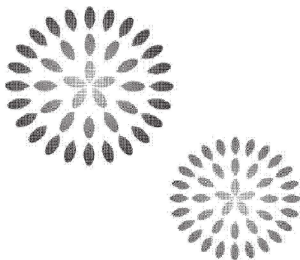
学校ボランティアの抱負

人間科学部2年 藤原達矢

私の今年度の白幡小学校での目標は「児童とメリハリのある関係を構築する」ことである。昨年度は、私は勉強するときは集中して教えることができていたが、休み時間に入ると児童たちが図書室で走り回ったり、物を投げて遊んだりすることを注意せずに、一緒に遊んでしまっていたこともあった。2時間目が始まるギリギリで席に着かせていたことが多かった。そのため、勉強時間と休み時間の区別がつきにくかったのか、集中する児童が少なかった印象を持った。そこで、今年度は、勉強時間と休み時間をしっかり区別させて、集中して2時間目に入れるように指示していくことを目標にした。さらに、休み時間にコミュニケーションを取る時に、児童と適切な距離感を持つことも目標にしている。あくまで教員と児童という立場で接していかなければならないと考えている。

昨年度では、ある児童に「先生は友達みたいで話しやすい」と言われたことがあった。話しやすいのは良いことだと思うが、友達感覚というのは良くないと考える。知らない間に、私は児童から同じような立場で見られていたのだと感じた。初めて、土曜塾に参加した際に事務局長さんから「先生と児童との距離感を縮めすぎないこと」と言われていた。休み時間に一緒になって遊んだりして、過度にコミュニケーションと取りすぎると児童に友達感覚が根付いてしまうことを学んだ。児童の要望全てに応えるのではなく、勉強の時間は勉強の質問だけに答えるようにするなどして、勉強と関係のない話をしている児童には、勉強に集中することを指導していくことで、児童との適切な距離感を保っていけることができると考えている。

今年度も明確な目標を持って、1回1回の土曜塾の活動を大事にしていきたいと思う。また、土曜塾だけではなく、体力テストのボランティアや、課外学習のサポートなど、土曜塾以外での活動も積極的に関わっていきたいと考えている。さらに、学んだことを次に生かせるような日誌作りもしていきたい。



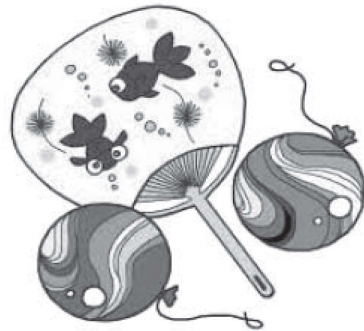
土曜塾を通して

法学部4年 戸花善紀

私が土曜塾に参加しようと思ったのは、児童と触れ合い、教えることの楽しさを味わいたいという単純な理由からです。しかし、初めて土曜塾に参加した時に、教えることの大変さや、児童たちを勉強に集中させる難しさを、身をもって感じることとなりました。

私の小学校時代を振り返ってみると、勉強はあまりせず、友人と毎日のように外で遊んでいました。そう考えると、小学生は、誰もが勉強よりも遊びに夢中で、勉強には消極的というのが普通であり、そんな児童たちに勉強を教え、集中させるということは、非常に難しいことです。児童たちの中には、しっかりと集中できている子もいますが、大半の児童たちは、友人との会話などに興じ、集中力が散漫になっているので、私も意地になって注意をしましたが、聞き入れてくれないことが殆どでした。しかし、児童たちと触れ合うことの楽しさを感じることができ、なにより、児童たちに「先生」と呼んでもらえるのがうれしかったです。やはり、良いことも悪いことも、得られるものが多々あったので、参加して良かったと思います。

まだ、土曜塾には二回しか参加していないので、まだまだ子供の気持ちを理解できない未熟者ではありますが、今後回数を重ね、児童たちと一緒に、私自身も成長していけたら良いと思います。





発行日：2014年7月23日

発行所：神大ユース・サポート・プロジェクト（JYSP）

TEL：045-481-5661（内線4352）

FAX：045-413-4154

E-mail：jysp-jimukyoku@kanagawa-u.ac.jp

URL：http://www.kanagawa-u.ac.jp/teacher_training_course/jysp

